

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	腫瘍制御科学領域 顎口腔腫瘍病態学分野 氏名 長内 俊之
指導教授氏名	小林 恒
論文審査担当者	主 査 松原 篤 副 査 中村 和彦 副 査 富山 誠彦
(論文題目) 一般高齢住民における口腔内環境と認知機能障害の関連についての縦断研究	
(論文審査の要旨) 本邦における認知症患者は今後ますます増加することが予想されている。近年の研究により口腔機能と認知機能は密接な関係にあることが報告され、口腔機能評価が認知機能低下の予防につながる可能性がある」と推察されている。 本研究では、2016年と2017年に連続して岩木健康増進プロジェクト健診に参加した60歳以上の246名を対象として、歯数、舌圧ならびに単位時間あたりの/pa/、/ta/、/ka/の発声回数を調べるオーラルディアドコキネシス(ODK)検査を行い、認知機能評価としてのMini-mental state examination(MMSE)ならびにウエクスラー記憶検査(Wechsler Memory Scale Revised:WMS-R)の論理記憶との関連を横断的・縦断的に評価し、口腔機能が認知機能障害に与える影響について検討を行った。 単変量解析と多変量解析の結果では、調査年に関わらず舌圧とODKの/pa/、/ka/が認知機能障害と関連し、さらに2017年では歯数とODKの/pa/も関連が認められた。 縦断的検討では認知機能の変化と有意に関連する因子として、歯数、舌圧、/pa/、/ta/、/ka/が挙げられた。さらに、認知機能障害発症のリスク比については、歯数18歯以下と19歯以上では3.68、/ta/が6回未満と以上では3.47、/ka/が6回未満と6回以上では9.1との結果が得られた。 これまでのオーラルフレイルと認知機能障害に関する縦断研究では、歯数以外の評価項目は検討されていなかった。本研究は、口腔機能のうち、歯数、舌圧、さらにODKが早期の認知機能低下と関連することを横断研究ならびに縦断研究により明らかにし、多角的な口腔機能評価が認知機能障害発症の予防および改善に寄与する可能性を新たに示したものとして、学位授与に値する。	
公表雑誌等名	体力・栄養・免疫学雑誌(JPFNI)2024年34(1)3-11頁